

大麦管理情報 (第1号)

令和5年11月1日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

9月の平均気温は、26.0℃(平年差+3.2℃)と平年に比べかなり高かった。10月は、平年に比べ、上旬が18.6℃(同-0.5℃)と低く、中旬が17.4℃(同+0.3℃)、下旬が15.0℃(同±0.0℃)と並であった。

(2) 降水量

9月の降水量は、217.0mm(平年比99%)と平年並であった。10月は、平年に比べ、上旬が45.5mm(同84%)、中旬が53.0mm(同93%)と並、下旬が68.0mm(同112%)と多かった。

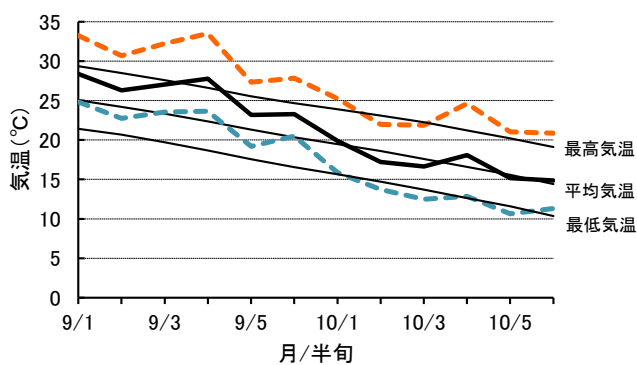


図1 9～10月の気温の推移(富山地方気象台)

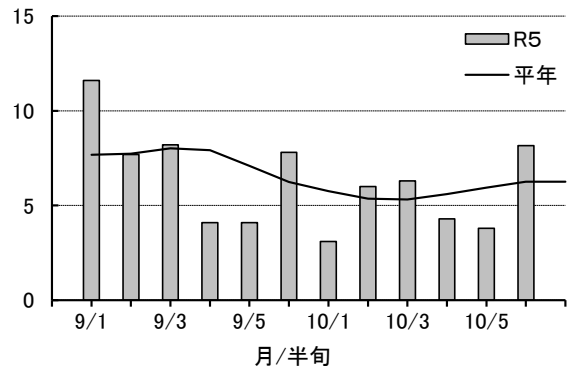


図2 9～10月の日降水量(富山地方気象台)

2 生育概況(生育観測ほ等データ)

- ・播種日は、10月7日と平年より2日遅くなった。苗立数は、167本/m²と平年並であった。
- ・平年に比べ、葉齢は並(平年差±0.0葉)、草丈はやや短く(平年比93%)、茎数はやや多く(平年比106%)、葉色は並(平年差+0.4)となっている。
- ・水が停滞しているほ場を中心に分けつの発生が少なく、ほ場による茎数のばらつきが大きい。

表1 大麦の生育状況(11月1日)

	播種日 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
				(本/株)	(本/m ²)		
6年産	10/7	167	19.8	1.8	325	3.4	38.7
5年産	10/6	170	20.1	1.8	296	3.2	39.0
平年	10/5	174	21.2	1.8	307	3.4	38.3

注) 調査ほ場数10、播種様式はすべてドリル播き、平年はH26～R5年産の平均

3 当面の技術対策

(1) 排水対策の徹底

- ・水が停滞しているほ場が多くみられることから、早急に排水対策を実施し、排水を促進する。
- ・ほ場ごとに、排水溝の崩れや排水口への連結、排水口の掘下げ状況等を点検し、随時手直しを行い、排水に努め、播種1か月後に茎数570本/m²を確保する。

(2) 分施肥体系の年内追肥による茎数の確保

基肥窒素は、播種1か月後には大麦の吸収や溶脱により土壌中の残存量が少なくなるため、播種1か月後頃に、窒素成分で10a当たり4kgを目安に追肥する。